



平成29年度

長野県ソフトボール協会 伝達講習会資料

2018オフィシャルソフトボールルール改正点

2018競技者必携 修正点

平成30年3月10日(土)～11日(日)

諏訪市 RAKO華乃井ホテル

長野県ソフトボール協会



2018 オフィシャル ソフトボール ルール改正点

2017 オフィシャル ルール

1-65項 ストライク ゾーン STRIKE ZONEとは、打者が打撃をしようとするときの脇の下と膝頭の上部の間の、本塁の上方空間をいう。

1-66項 タッグ TAG(タッチ)とは、野手が手、またはグラブで球を確捕して、身体の一部を塁に触れたり、確捕した球または球を確捕したグラブで走者に触れる行為をいう。

P21

※ルール改正の理由・趣旨
国際ルールが改正されたことに伴い、それに合致する内容に修正を行った

2. ユニフォームナンバー

P38

ユニフォームナンバーは、背中と胸下につける。

監督は30、コーチは31・32、主将は10、他のプレイヤーは1から99までの番号とする。

※ルール改正の理由・趣旨

記録委員会からの指摘により、ルールにユニフォームナンバーの略号に関する説明がなかったため、指名選手(DP/DESIGNATED PLAYER)と同様の形で、ユニフォームナンバー (UN/UNIFORM NUMBER)の表記を追加した

4-8項 プレイヤーのマナー

P47

1. チームのメンバーは、審判員の判定に対し、不服の言動や不満の態度を示してはならない。

2. チームのメンバーは、競技施設内(ベンチを含む)で喫煙をしてはならない。(競技施設内では指定された場所以外で喫煙してはならない)

3. 攻撃側チームのメンバーは、試合中いかなるときも、故意に打者席のラインを消してはならない。

(注) 国際ルールでは、打者がラインを消した場合は、ボールデッドとなり、打者に対してワンストライクが宣告される。監督・コーチやプレイをしていない攻撃側のメンバーがラインを消した場合には、次の打順のプレイヤーに対してワンストライクが宣告される。

※ルール改正の理由・趣旨

すでに国際大会では実施・運用されているルールであり、2017年のルールブック発行時に「国際ルールの改正がなければ完全実施」の予告通り、本年から〈効果〉を適用することになった

6-1項 投球の準備

P57

1. 投手は球を持たないで、投手板上またはその付近で投球姿勢をとってはならない。

2. 捕手が捕手席内にいないときは、投手は投球位置にいるとはみなさない。

3. 投手板を踏むときは、必ず両手を離して両足を投手板に触れていなければならない。

そのとき、一塁と三塁を結んだ線に両腰を合わせる。

4. 捕手のサインを見るときは、投手板上で両手を離して、グラブあるいは投球する手に球を保持しなければならない。

5. 投球動作に入るときは、身体の前または横で球を両手で持ち、2秒以上、5秒以内身体を完全に停止しなければならない。

※ルール改正の理由・趣旨

国際ルールが改正されたことに伴い、それに合致する内容に修正を行った

2018 オフィシャル ルール

1-65項 ストライク ゾーン STRIKE ZONEとは、打者が自然に構えたとき(スイングする前)の「みぞおち」(上限)と「膝の皿の底部」(下限)の間の、本塁上の上方空間をいう。(※詳細はR7-4項ストライクを参照のこと)

(注1) 高低においては、球の最上部(トップ)が上限に接するか、それより下を通過すれば「ストライク」である。また、球の最下部(底部)が下限に接するか、それより上を通過すれば「ストライク」である。

(注2) 内・外角は、ホームプレートを上から見た状態で、ホームプレートに球が接すれば(球がホームプレート上にかかっても)「ストライク」である。

(注3) ホームプレート上に想定される5角柱の空間のどこかを球が通過すれば「ストライク」である。

P21

2. ユニフォームナンバー (UN/UNIFORM NUMBER)

ユニフォームナンバーは、背中と胸下につける。

監督は30、コーチは31・32、主将は10、他のプレイヤーは1から99までの番号とする。

P40

4-8項 プレイヤーのマナー

P49

1. チームのメンバーは、審判員の判定に対し、不服の言動や不満の態度を示してはならない。

2. チームのメンバーは、競技施設内(ベンチを含む)で喫煙をしてはならない。(競技施設内では指定された場所以外で喫煙してはならない)

3. 攻撃側チームのメンバーは、試合中いかなるときも、故意に打者席のラインを消してはならない。

〈効果〉 3

(1) ボールデッド。

(2) 打者に対してワンストライクが宣告される。

(注) 次の打者が打席に入る前や選手交代時に、監督・コーチや攻撃側のメンバーがラインを消した場合には、次の打順のプレイヤーに対してワンストライクが宣告される。

6-1項 投球の準備

P59

1. 投手は球を持たないで、投手板上またはその付近で投球姿勢をとってはならない。

2. 捕手が捕手席内にいないときは、投手は投球位置にいるとはみなさない。

3. 投手板を踏むときは、必ず両手を離して、軸足を投手板に触れておかなければならない。

(注) 両足を投手板に触れておくか、軸足を投手板に触れながら自由足を後方(投手板の両端の後方延長線内)に置くことができる。

そのとき、一塁と三塁を結んだ線に両腰を合わせる。

4. 捕手のサインを見るときは、投手板上で両手を離して、グラブあるいは投球する手に球を保持しなければならない。

5. 投球動作に入るときは、身体の前または横で球を両手で持ち、両足を投手板に触れている状態、もしくは軸足を投手板に触れながら自由足を後方に置いた状態で、2秒以上、5秒以内身体を完全に停止しなければならない。

(注) 完全停止後、自由足を投手板から後方に引いたり、あらかじめ後方に置いていた自由足をさらに後方に引いた場合は不正投球となる。

2018 オフィシャル ソフトボール ルール改正点

2017 オフィシャル ルール

6-7項 塁への送球

P61

1. 投手はボールインプレイ中に、投球姿勢をとったのち、足を投手板に触れたまま塁に送球してはならない。
 2. 投手が投手板を外すことのできる場合は次の通りである。
 - (1) 走者が塁を離れているとき。
 - (2) 打者が打者席を出たとき。
 - (3) アピールプレイをしようとしたとき。
- (注) 投手が投手板を外すときは、両手を離す前に、**両足**を投手板の後方に外さなければならない。

3. 打者は、試合中いかなるときも、故意に打者席のラインを消してはならない。 P68

(注) 国際ルールでは、打者がラインを消した場合は、ボールデッドとなり、打者に対してワンストライクが宣告される。また、監督・コーチやプレイをしない攻撃側のメンバーがラインを消した場合には、次の打順のプレイヤーに対してワンストライクが宣告される。

4. 打者は、投球間にサインの確認や素振りをするとき、打者席内に片足を置いておかなければならない。

【例外】

- (1) フェア、ファウルに関わらず、打者が投球を打ったとき。
 - (2) スイングしたとき。あるいはスイングを試みたとき(チェックスイングを含む)。
 - (3) 投球を避けるため、打者席を出ざるを得なかったとき。
 - (4) ワイルドピッチやパスボールがあったとき。
 - (5) 本塁上でプレイが行われたとき。
 - (6) タイムが宣告されたとき。
 - (7) 投手がピッチャーズサークルを離れたとき。または、捕手が捕手席を離れたとき。
- (注) 国際ルールでは、打者が【例外】の場合を除き、打者席から両足を外した場合、打者に対してワンストライクが宣告される。

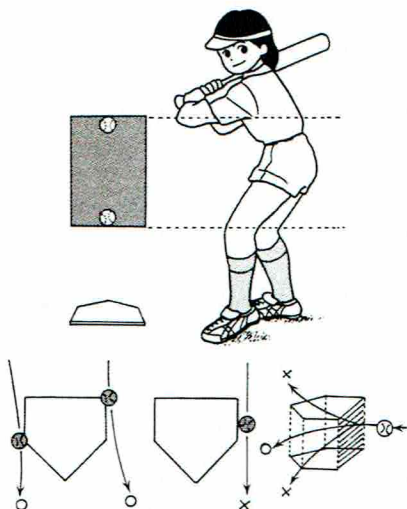
※ルール改正の理由・趣旨

R7-3項「打撃姿勢」3~4はすでに国際大会では実施・運用されているルールであり、R4-8項3と同様に「完全実施」の予告通り、本年から〈効果〉を適用することになった

7-4項 ストライク

P69

1. 正しい投球が地面につく前にストライクゾーンを通過したとき。



(○はストライク、×はボールを示す)

2018 オフィシャル ルール

※ルール改正の理由・趣旨

R6-項「投球の準備」の改正に伴い、アピールプレイの際の投手板の外し方も「両足」ではなく(両足が触れている場合もあるが、自由足を後方に置くことが認められたので)、「足を投手板の後方に外す」とした

- (3) アピールプレイをしようとしたとき。

P64

(注) 投手が投手板を外すときは、両手を離す前に、**足**を投手板の後方に外さなければならない。

3. 打者は、試合中いかなるときも、故意に打者席のラインを消してはならない。

〈効果〉 3

- (1) ボールデッド。
- (2) 打者に対してワンストライクが宣告される。

(注) 次の打者が打席に入る前や選手交代時に、監督・コーチや攻撃側のメンバーがラインを消した場合には、次の打順のプレイヤーに対してワンストライクが宣告される。

4. 打者は、投球間にサインの確認や素振りをするとき、打者席内に片足を置いておかなければならない。

〈効果〉 4

- (1) ボールデッド。
- (2) 打者に対してワンストライクが宣告される。

【例外】

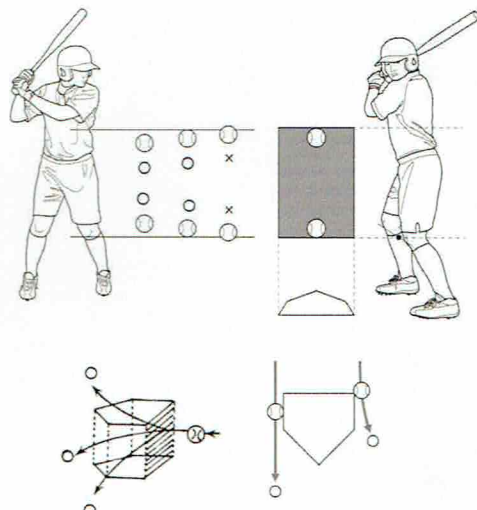
- (1) フェア、ファウルに関わらず、打者が投球を打ったとき。
- (2) スイングしたとき。あるいはスイングを試みたとき(チェックスイングを含む)。
- (3) 投球を避けるため、打者席を出ざるを得なかったとき。
- (4) ワイルドピッチやパスボールがあったとき。
- (5) 本塁上でプレイが行われたとき。
- (6) タイムが宣告されたとき。
- (7) 投手がピッチャーズサークルを離れたとき。または、捕手が捕手席を離れたとき。

P72

7-4項 ストライク

P73

1. 正しい投球が地面につく前にストライクゾーンを通過したとき。



※ルール改正の理由・趣旨 国際ルールが改正されたことに伴い、それをイラストで図示した

2018 オフィシャル ソフトボール ルール改正点

2017 オフィシャル ルール

(注) 「ストライクゾーン」は、打者が打撃をしようとするときの脇の下と膝頭の上との間の本塁の上方空間である。

P69

※ルール改正の理由・趣旨
国際ルールが改正されたことに伴い、それに合致する
内容に修正を行った

10. 打者が投手の両足が投手板に触れたのち、反対側の打者席に移ったとき。

P73

※ルール改正の理由・趣旨 R 6- 項「投球の準備」の改正に伴い、「両足」を「軸足」に修正

24. 送球がブロックされたりオーバースローになったとき。

P100

2018 オフィシャル ルール

(注1) 「ストライクゾーン」とは、打者が自然に構えたとき（スイングする前）の「みぞおち」（上限）と「膝の皿の底部」（下限）の間の本塁上の上方空間をいう。

P73

(注2) 高低においては、球の最上部（トップ）が上限に接するか、それより下を通過すれば「ストライク」である。また、球の最下部（底部）が下限に接するか、それより上を通過すれば「ストライク」である。

(注3) 内・外角は、ホームプレートを上から見た状態で、ホームプレート

に球が接すれば（球がホームプレート上にかかっていなくても）「ストライク」である。

P74

(注4) ホームプレート上に想定される5角柱の空間のどこかを球が通過すれば「ストライク」である。

10. 打者が投手の軸足が投手板に触れたのち、反対側の打者席に移ったとき。

P77

24. 送球やフェアの打球がブロックされたりオーバースローになったとき。

P104

※ルール改正の理由・趣旨
R 9- 項「ボールデッド」 24をR 3- 6項「用具の放置」に対象を合わせ、「フェアの打球」を追加した

2018 競技者必携 修正点

2017 競技者必携

2. 第1種公認審判員認定委員会細則

第1条 (公財)日本ソフトボール協会第1種公認審判員の認定に関する事項を処理するため(公財)日本ソフトボール協会公認審判員規程(以下、日ソ協公審規程という)第9条に基づき、この細則を定める。

P20

2018 競技者必携

2. 第1種公認審判員認定委員会細則

第1条 (公財)日本ソフトボール協会第1種公認審判員の認定に関する事項を処理するため(公財)日本ソフトボール協会公認審判員規程(以下、日ソ協公審規程という)第3条に基づき、この細則を定める。

P20

※修正理由

該当条項に誤りがあったため、正しい条項に修正した(×第9条⇒○第3条)

(4) DP (指名選手)

P37



【DP】・攻撃を行う選手
・再出場できる
・守備にも参加できる
・守備のみはできない

【FP】・守備を行う選手
・再出場できる
・攻撃にも参加できる
・攻撃のみはできない

覚えておきたい3つのポイント

- ①FPは攻撃のみのプレイはできない。
- ②DPは守備のみのプレイはできない。
- ③DPとFPは同時に攻撃はできない。

(4) DP (指名選手) ※イラストを削除

P37

【DP】・攻撃を行う選手
・再出場できる
・守備にも参加できる
・守備のみはできない

【FP】・守備を行う選手
・再出場できる
・攻撃にも参加できる
・攻撃のみはできない

覚えておきたい3つのポイント

- ①FPは攻撃のみのプレイはできない。
- ②DPは守備のみのプレイはできない。
- ③DPとFPは同時に攻撃はできない。

DPおよびFPのいずれの交代についても、必ず通告しなければならない。

※修正理由

文章による説明で十分に内容を理解できるため、イラストを削除した

8. 打撃について

P42

- (1) 打者に対する10秒ルールは、審判員が打者席に入るよう指示した時点からはじまる。
- (2) 打者の片足が打者席の外の地面に触れたのちは、たとえもう一方の足が打者席内に残っていても、フェア地域で打球が打者に触れればアウトである。
- (3) チェックスイング (ハーフスイング)
ア、打者がグリップ (手首) を利かしたかどうかを見極める。
イ、スイングしたかどうかの確認が困難であったときは、捕手の要求の有無に関係なく、塁審に裁定を求める。
- (4) グリップバントについて
バットのノブの部分が、手より出ている場合は正しいバントとするが、ノブを手で覆っている場合は、球が手に触れたものとする。
- (5) バントの中止は、バットを引く動作がなければ中止とはみなさない。
- (6) バットを両手から離れたのちに打球に当たる打法は、合法的ではない。このようなときは「打者アウト」を宣告する。
ただし、空振りの場合は適用しないが、状況により守備妨害を適用することもある。
- (7) 打者が監督のサインを見るために、しばしば打者席を外した

8. 打撃について

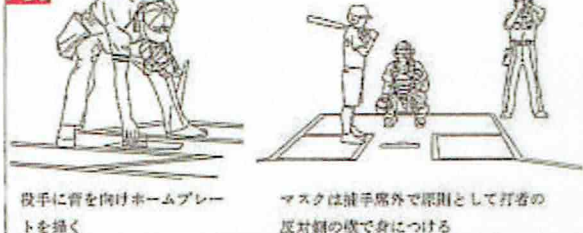
P42

- (1) 打者に対する10秒ルールは、審判員が打者席に入るよう指示した時点からはじまる。
- (2) 打者の片足が打者席の外の地面に触れたのちは、たとえもう一方の足が打者席内に残っていても、フェア地域で打球が打者に触れればアウトである。
- (3) チェックスイング (ハーフスイング)
ア、打者がグリップ (手首) を利かしたかどうかを見極める。
イ、スイングしたかどうかの確認が困難であったときは、捕手の要求の有無に関係なく、塁審に裁定を求める。
- (4) グリップバントについて
バットのノブの部分が、手より出ている場合は正しいバントとするが、ノブを手で覆っている場合は、球が手に触れたものとする。
- (5) バントの中止は、バットを引く動作がなければ中止とはみなさない。
- (6) バットを両手から離れたのちに打球に当たる打法は、合法的ではない。このようなときは「打者アウト」を宣告する。
ただし、空振りの場合は適用しないが、状況により守備妨害を適用することもある。※従前の(7)を削除。後の項目を繰り上げ
- (7) 打者が不正打球をしてダブルプレイが成立したときは、「不

※修正理由

R4-8項3 (効果3)、R7-3項3 (効果3)、R7-3項4 (効果4) が新設・適用されるようになったため、従前の (7) は不要となったため、削除。従前の (8) ~ (13) を (7) ~ (12) に繰り上げた

P53



投手に背を向けホームプレートを描く

マスクは捕手席外で原則として打者の反対側の横で身につける

P53



投手に背を向けホームプレートを描く

マスクは捕手席外で原則として打者の反対側の横で身につける

2018 競技者必携 修正点

2017 競技者必携

エ. 球審が、“プレイボール”を宣告するときは、投手が、投手板に**両足**を置くのと同時である。
(プレイ中断からの再開の場合の“プレイ”は、投手が投手板に着いたときに宣告する)

2018 競技者必携

エ. 球審が、“プレイボール”を宣告するときは、投手が、投手板に**軸足**を置くのと同時である。
(プレイ中断からの再開の場合の“プレイ”は、投手が投手板に着いたときに宣告する)

※修正理由

R6-1項「投球の準備」の改正に伴い、「両足」ではなく(両足が触れている場合もあるが、自由足を後方に置くことが認められたので)、「軸足」に修正した

ア. 一塁および三塁塁審

【走者のいないとき】(図④)

塁から6～7m程度離れたファウルラインの外側に立つ。(攻守交代時以外は手を後ろに組まないで、立ったままの姿勢でよい)

【走者のいるとき】(図⑤)

タッチプレイに備えて5m程度まで近づく。

また、二塁に走者がいるときは、三塁塁審は定位置より1m程度三塁に近づく。

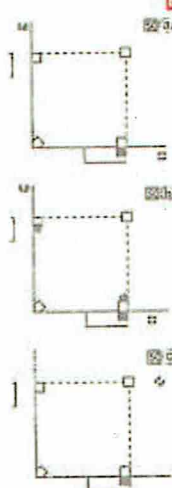
イ. 二塁塁審

【走者のいないとき】(図⑥)

中堅手の守備の助けにならないよう常に注意し、塁から6～7m程度に位置する。

【走者が一・二塁にいるとき】

塁にやや近づいて(塁から4～5m程度)タッチプレイに備える。



ア. 走者のいないとき

塁から6.5m離れた位置に立つ。

イ. 走者のいるとき

走者の位置にかかわらず、どの塁にいても、すべての塁審は塁から4.5mの位置に立つ。

ウ. 一塁に走者がいるときの二塁塁審

塁から4.5m離れ、ファウルラインに沿って、外側に立つ。
(※ラインから離れない)

エ. 三塁に走者がいるときの三塁塁審

塁から4.5m離れ、ファウル地域へ1～2m離れて立つ。

※修正理由

国際大会における塁審の判定位置~~を~~に合わせ、塁審の位置を変更。今後、日本における国際大会の開催も目白押しであり、求められる「国際化」に対応すべく修正を行った

(5) 塁審の動きと判定位置

ア. フォースプレイ

【一塁】(図⑦)

塁から6～7m程度の距離で、送球のコースに対して原則として90度の位置に移動して判定する。

このとき、塁から45度以上は越えないようにし、通常フェア地域の中に3歩移動する。

送球の方向①～⑤により、原則としてア～エの位置に移動する。

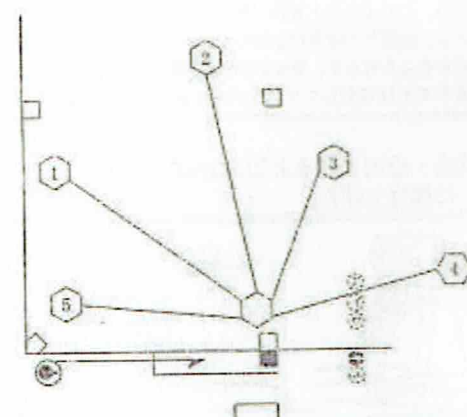
①…② ②…③ ③…④ ④…⑤ ⑤…⑥

○は、送球する野手の位置

●は、走者がいないときの二塁塁審の位置

○は、二塁塁審の判定位置

●は、打者走者



(5) 塁審の動きと判定位置

ア. フォースプレイ

【一塁】(図⑧)

塁から6.5mの距離で、送球のコースに対して原則として90度の位置に移動して判定する。

このとき、塁から45度以上は越えないようにし、通常フェア地域の中に3歩移動する。

送球の方向①～⑤により、原則としてア～エの位置に移動する。

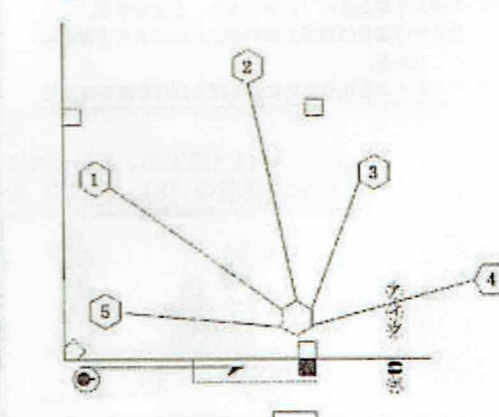
①…② ②…③ ③…④ ④…⑤ ⑤…⑥

○は、送球する野手の位置

●は、走者がいないときの二塁塁審の位置

○は、二塁塁審の判定位置

●は、打者走者



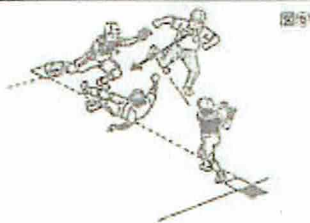
※修正理由 国際大会の塁審の動きと判定位置を基準に修正を行った

2018 競技者必携 修正点

2017 競技者必携

【二塁】(図a)

塁から6~7m程度の距離で、送球のコースに対して90度の位置に移動し、判定する。



イ、タッチプレイ

【一塁】

タッチプレイは3mぐらいまで近づき、確認し、さらに一歩踏み込んで宣告する。

【二塁・三塁】

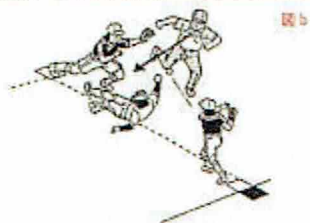
二塁(三塁)でタッチプレイを見るのに最適な位置に素早く動く。この場合、遊撃手または二塁手(三塁手)の動き、および送球のコースに注意を払う。

P61

2018 競技者必携

【二塁】(図b)

塁から8.5mの距離で、送球のコースに対して90度の位置に移動し、判定する。



イ、タッチプレイ

【一塁】

プレイは3.5mの距離まで近づき、左路に対して90度の位置で確認し、さらに一歩踏み込んで宣告する。

【二塁・三塁】

二塁(三塁)でタッチプレイを見るのに最適な位置に素早く動く。この場合、遊撃手または二塁手(三塁手)の動き、および送球のコースに注意を払う。

P61

※修正理由 国際大会の塁審の動きと判定位置を基準に修正を行った

7. 監督の選択権について

P66

- (1) 野手が不正用具でプレイしたとき。
(3-3項(効果)3項、P34)
- (2) 再出場違反したプレイヤーが守備でプレイをしたとき。
(4-6項3(効果)3、P45)
- (3) 無通告交代をしたプレイヤーが守備でプレイをしたとき。
(4-7項(効果)7項、P46~47)
- (4) 打者が不正投球を打ったとき。
(6-1項~7項(効果)1項~7項、P61~62)
- (5) 不正投手が投球した球を打者が打ったとき。
(6-12項(効果)12項、P64)
- (6) 捕手が打撃妨害をしたとき。
(8-1項 4(効果)4、P75~76)

7. 監督の選択権について

P66

- (1) 野手が不正用具でプレイしたとき。
(3-3項(効果)3項、P36)
- (2) 再出場違反したプレイヤーが守備でプレイをしたとき。
(4-6項3(効果)3、P47)
- (3) 無通告交代をしたプレイヤーが守備でプレイをしたとき。
(4-7項(効果)7項、P48~49)
- (4) 打者が不正投球を打ったとき。
(6-1項~7項(効果)1項~7項、P64)
- (5) 不正投手が投球した球を打者が打ったとき。
(6-12項(効果)12項、P67)
- (6) 捕手が打撃妨害をしたとき。
(8-1項 4(効果)4、P79~80)

※修正理由 ルールブックの該当ページ数が変わったことに伴う修正

試合開始

プレイボール

球審はマスクを着けて捕手の後立つ。
打者は打席につかせる。
塁審、プレイヤー、ベースコーチが、所定の位置についたかどうかを確認する。

球審・塁審の構え

球審は、捕手の位置を考慮しながら、原則として投手に正対して本塁の中心よりインサイドに構え、両足は肩幅より広く開き、打者側の片足をやや前方にして、捕手に近づいて構える。
塁審は、塁に走者のいるときには両手を握り、両足の大腿の付け根付近に軽く揃え構える。

P69

試合開始

プレイボール

球審はマスクを着けて捕手の後立つ。
打者は打席につかせる。
塁審、プレイヤー、ベースコーチが、所定の位置についたかどうかを確認する。

球審・塁審の構え

球審は、捕手の位置を考慮しながら、原則として本塁の中心よりインサイドに構え、両足は肩幅より広く開き、打者側の片足をやや前方にして、捕手に近づいて構える。
塁審は、塁に走者のいるときには両手を握り、両足の大腿の付け根付近に軽く揃え構える。

P69

※修正理由 「投手に正対して」の文言を削除

基本動作の確認

P90

1. 球審の構え

- (1) 服装を整え、マスク等の用具は必ず着用し、所定の位置につく。このとき、マスクの上のバンドは、頭上に盛り上がらないように注意する。
- (2) 捕手の位置を考慮しながら、原則として投手に正対して本塁の中心よりインサイドに構え、両足は肩幅より広く開き、打者側の片足をやや前方にして、捕手に近づいて構える。



基本動作の確認

P90

1. 球審の構え

- (1) 服装を整え、マスク等の用具は必ず着用し、所定の位置につく。このとき、マスクの上のバンドは、頭上に盛り上がらないように注意する。
- (2) 捕手の位置を考慮しながら、原則として本塁の中心よりインサイドに構え、両足は肩幅より広く開き、打者側の片足をやや前方にして、捕手に近づいて構える。



※修正理由 「投手に正対して」の文言を削除

2018 競技者必携 修正点

2017 競技者必携

2018 競技者必携

P120

〔右投げ投手〕

自由足 軸足 ② 合法 × 不正

〔踏み方〕



〔注〕自由足・軸足とも、両足が投手板に触れていれば、合法的な投手板の踏み方である。ただし、足が投手板の側面だけに触れている場合は投手板に触れていないとみなさない。

図1のように自由足がバックステップして、投手板から離れると不正投球になる。ただし、一連の投球動作の中で、つま先が滑りて投手板から離れても、投球開始時と踵の位置が変わらなければ、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

〔踏み出し方〕

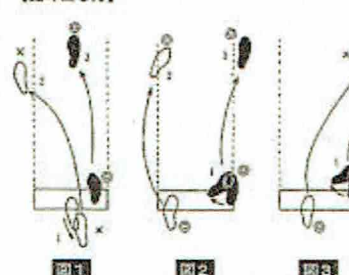


図3のように軸足の踵が一連の投球動作の中で投手板から離れても、つま先の位置が投球開始時と変わっていないければ（つま先が前方に移動していないければ）、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

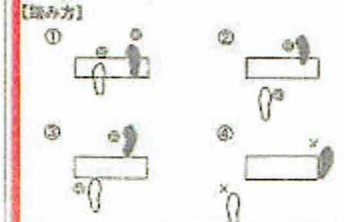
図1

図2

図3

自由足 軸足 ② 合法 × 不正

〔踏み方〕



〔右投げ投手〕

〔注〕自由足・軸足とも、両足が投手板に触れていれば、合法的な投手板の踏み方である。ただし、左図②のように軸足が投手板の側面だけに触れている場合は投手板に触れていないとみなさない。また、自由足を投手板の前方に置く場合は、投手板の両端の延長線内に置かなければならない。

上図②、下図（図1）のように自由足が投手板から離れていても不正投球にはならない。また、一連の投球動作の中で、つま先が滑りて投手板から離れても、投球開始時と踵の位置が変わらなければ、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

〔踏み出し方〕

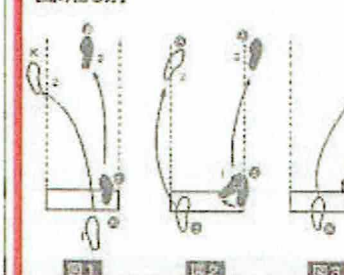


図3のように軸足の踵が一連の投球動作の中で投手板から離れても、つま先の位置が投球開始時と変わっていないければ（つま先が前方に移動していないければ）、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。

図1

図2

図3

P120

※修正理由 R6-1項3及び5のルール改正に伴い、イラスト及び解説文を改正されたルールに合わせ、修正した

P121

10. 投手板の踏み方・踏み出し方

図1

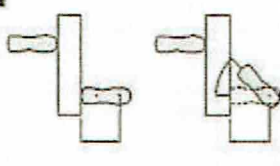


図1 投手板に両足が触れ、正しくセットしており、軸足のつま先の位置が投球開始時と変わらなければ、その後の一連の投球動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

図2

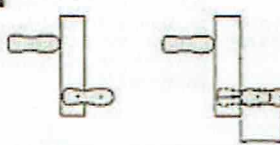


図2 投手板に両足が触れ、正しくセットしており、軸足が投手板の上を斜めにスライドしても合法的な投球動作である。また、軸足のつま先の位置がスライドさせた地点と変わらなければ、その後の一連の投球動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

図3

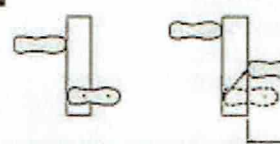
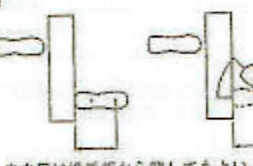


図3 投手板に両足が触れ、正しくセットしており、軸足が投手板の上を斜めにスライドしても合法的な投球動作である。また、軸足のつま先の位置がスライドさせた地点と変わらなければ、その後の一連の投球動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

P121

10. 投手板の踏み方・踏み出し方

図1



自由足は投手板から離れてもよい
(※投手板の両端の延長線内)

図2

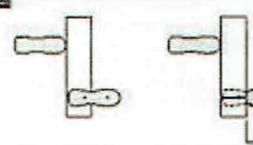


図2 投手板に両足が触れ、もしくは軸足を投手板に触れながら、自由足を後方に置き、正しくセットしており、軸足が投手板の上を前方にスライドしても合法的な投球動作である。また、軸足のつま先の位置がスライドさせた地点と変わらなければ、その後の一連の投球動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

図3

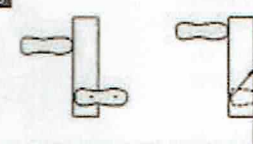


図3 投手板に両足が触れ、もしくは軸足を投手板に触れながら、自由足を後方に置き、正しくセットしており、軸足が投手板の上を斜めにスライドしても合法的な投球動作である。また、軸足のつま先の位置がスライドさせた地点と変わらなければ、その後の一連の投球動作の中で踵が投手板から離れても不正投球とはみなさない。

※修正理由 R6-1項3及び5のルール改正に伴い、イラスト及び解説文を改正されたルールに合わせ、修正した